

ワークショップ 日本機械学会材料力学講演会 (M&M2003) 企画

QOLを支える医療機器 形状記憶合金機能発現と実用化

開催日時： 2003年9月25日 9:30~12:00

場 所：富山大学工学部 (<http://www3.toyama-u.ac.jp>)

参加費：1000円 当日併催されるMM2003に参加登録いただいた方は無料です。

ワークショップの目的：

高齢化社会を迎えた我が国では，生活水準をいかにして向上させるかが万人の興味となっています．当ワークショップでは，QOL (Quality of Life) を支える医療機器というタイトルで，工学研究者，医療機械技術者と臨床医がそれぞれの立場からニーズとシーズに対する相互の期待，要望などを議論します．専門家以外の方々にも理解いただけるよう，将来の医療機械開発の方向性を示すということが当WSの目的です．

概 要

まず，『臨床医の立場から考える医療機器の実体』というタイトルで，臨床医の視点から塚田修先生（上田腎クリニック）と島田厚先生（北里大学医学部 胸部外科）にお話をいただきます．現場で医療機器を取り扱いながら感じた問題点など，ざっくばらんなお話を伺うことができます．塚田先生は，ご自身で医療機械の開発も手がけており，そのような立場からのお話も伺えます．

つづいて，製品開発と医療機器の製造の観点から，パイオラックス(株)の大方一三様からお話をいただきます．すでに実用されている医療機器の概要やその問題点などについてのお話を伺えます．

また，形状記憶合金を医療機器に応用する，と言う観点から，具体的に形状記憶合金の生体適合性に注目をして研究をされている北里大学医療衛生学部の森田真史先生から研究の動向に関してお話をいただきます．さらに，形状記憶合金の基礎に関しては徳島大学の高木均先生にご講演をお願いしております．

最後に工学院大学の木村雄二先生のコーディネートによりパネルディスカッションを行います．そこでは，医療現場の医師と医療機器を作製する工学者との連携がどうあるべきかという点に的をしばり，意見交換を致します．また，形状記憶合金を積極的に医療機器として使用するためには，工学者が今後何をすべきかなどについてフリーに話し合いをします．

これらの講演とパネルディスカッションを通じて，専門家以外の方々にも，医療機器の問題点や今後の課題などが平易にご理解いただけることを期待しております．

当ワークショップは日本機械学会材料力学部門講演会(M&M2003)の企画として開催されます．講演会の詳細は<http://www3.toyama-u.ac.jp/mm2003> をご参照ください．

<問い合わせ先> 慶應義塾大学 小茂鳥 潤
komotori@mech.keio.ac.jp